

# お宝拝見！ ③今も忘れぬ「霜おく髪」の教え - Purity, Confidence, Love -

ベーツ院長去る

異国人の三十年余の教へ永久に守らん

片假名の殿宛見えぬ缺席届

今は見るせもあらじ仁の川に

霜おく髪や惚ぼるる

三十年余を異国に捧げし院長の

白髪仰げる日幾日ぞ

外国語(トククニ)なれどひしく胸を打つ

離別の授業に涙かな

三千人の誠や遠く海を越え

行くて守らん永久に

昭和十五年十二月十二日



【齋藤昭さん撮影】



若き日の齋藤昭さん  
(1940年卒業アルバムより)

今年の KGAA 対抗ゴルフ大会懇親会(10月17日、千刈カンツリー倶楽部)で、ベーツ先生の話をして欲しいと頼まれました。早朝からのラウンドを終え、一風呂浴びてリラックスされた193名の体育会OB/OGを前にどのような話をしたらいいのか戸惑いました。しかも、「ベーツ先生のごことはほとんど何も知らないと思って欲しい」「皆好き勝手に雑談するので話しにくいと思いますが…」との説明を受けてのことでした。

ところが、私がマイクを持って話し始めると、クラブハウスは静まり、驚くほど熱心に耳を傾けてくださったのです。KGAAは母校を愛する、礼儀正しい紳士淑女(女性はおほんの僅かでした)の集まりでした。

話を終えると、今年93歳のラグビー部OB齋藤昭さん(高商昭15、商経昭17)が走り出て来られました。「私が入学試験を受けた時の面接官はベーツ先生でした!」。マイクを手に70年以上昔の思い出を語り始められたのです。

その齋藤さんが、ホームカミングデー(11月3日)のベーツチャペルにご自身の日記(歌)とベーツ先生の写真をお持ちになり、恩師への惜別の思いを改めてご披露くださいました。齋藤さんが歌を詠まれた1940年12月12日は、学生会主催の送別会が行われた日です(ベーツ先生がカナダへの帰国のため神戸港を出発されたのは30日でした)。送別会でベーツ先生が強調された言葉として、「Purity」「Confidence」「Love」の3つを齋藤さんは今も大切に心に刻んでおられます。

「中央講堂はほぼ満員で、1,000人以上の学生がいたと思う。何人かの挨拶があって、餞別の品をいただいた。絵画部弦月会の学生-商経学部3年の田中君-が描いた絵とガラスケースに入った美しい人形2体、それから見事な薩摩焼の壺」。送別会のことをベーツ先生が日記にこう記された二月後、学生会は解散し、報国団が結成されました。



[学院史編纂室 池田裕子]

★このような歴史的資料(書簡、写真、図書、器物等)をお持ちの方は、学院史編纂室までご一報ください。

学院史編纂室便り No. 34 (2011年12月1日)

関西学院 学院史編纂室

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462

<http://www.kwansei.ac.jp/gakuinshi/ARCHIVES.htm>